

シカの有効活用

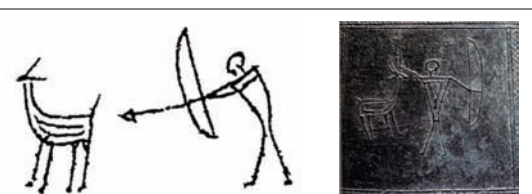
シカは人にとって貴重な天然資源です



古くからシカを利用

シカをはじめとした野生動物は、古くから貴重なタンパク源であり、毛皮も価値の高いものでした。

弥生時代の土器や銅鐸にもシカを弓矢で射る人の絵などが描かれています。また、昭和初期には日本の毛皮の価値が高く、輸出もされていました。しかし、現代社会では、野生動物を資源として活用する必要性がなくなってきました。



弥生時代の銅鐸に描かれたシカを弓矢で射る人の絵

左図：伝香川県出土銅鐸【国宝】弥生時代中期『銅鐸の美』1995年 国立歴史民俗博物館より作成・改変
右図：兵庫県神戸市桜ヶ丘町出土【国宝】弥生時代中期神戸市立博物館所蔵



シカ肉は優れた食材

シカ肉はタンパク質、ミネラルが豊富なうえに、脂肪がほとんどありません。そのため、ヘルシー食材として注目されています。熟成を上手に行うことでうま味が増します。

① 低カロリー

カロリーは牛肉の3分の1程度しかありません。味もさっぱりとしていて、食べやすい。

② 低脂肪

脂質は牛肉の86分の1と大変ヘルシー。ダイエット食品としても注目されています。

③ 高たんぱく

高たんぱくで知られている、鶏のササミと同等のたんぱく質を保有しています。

③ 鉄分 豊富

レバーや貝と同レベルの鉄分やミネラルを含んでいます。



シカ皮の利用

シカ皮は柔らかくて丈夫で水に強く、通気性・保温性・吸湿性に優れています。シカ皮に適した利用方法が研究されています。



シカ肉の安全性

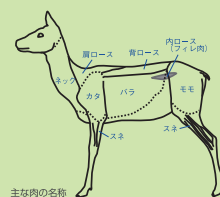


野生のニホンジカには、家畜と比べても問題となる人畜共通感染症は少ないことが分かってきています。しかし、野外で解体処理を行うと食中毒菌に汚染される原因となるため、衛生的に管理された処理施設で解体処理を行うことが必要です。また、食肉としては、必ず加熱して食べる必要があります。

ひょうごシカ肉活用ガイドラインを作成



安心安全なシカ肉の流通を促すため、シカ肉の衛生的な処理方法などの基準を兵庫県独自に示したものです。兵庫県では、県内で生産され、このガイドラインにそった衛生的な取扱いも合わせた食品を、「ひょうご推奨ブランド」として認証しています。



主な肉の名称



「ニホンジカ有効活用研究会」による普及活動

研究会では兵庫県内でシカ肉を活用している団体・個人が集まり、料理講習会や解体実習、衛生講習会などを実施しています。また、現代にあった生産・流通方法などを模索する検討会も行っています。

兵庫県 森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

〒669-3842 丹波市青垣町沢野9-4-0
TEL: 0795-80-5500 FAX: 0795-80-5506 HP: <http://www.wmi-hyogo.jp/>



森林動物研究センターでは、シカの生態調査や被害に強い集落づくりの指導・助言を行っています。

古紙を含んだ紙を使用しています。24農P2-017A4



生物多様性の保全と被害の防止に向けて ニホンジカをめぐる問題

個体数の増加にともない様々な問題が生じています。
ニホンジカの適切な管理が重要な課題になっています。



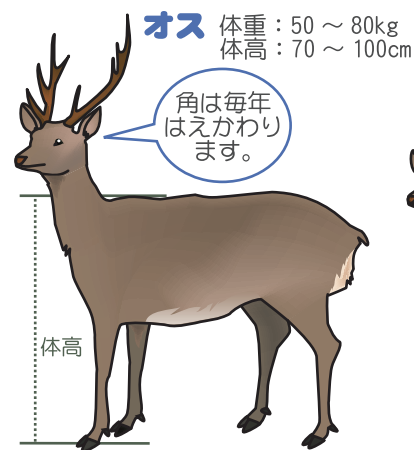
兵庫県における分布

シカは県内に広く分布しています。分布の中心は南但馬から西播磨でしたが、個体数の増加とともに分布も拡大しています。近年は雪の多い地域にも広がってきました。淡路島では南東部に集中しています。

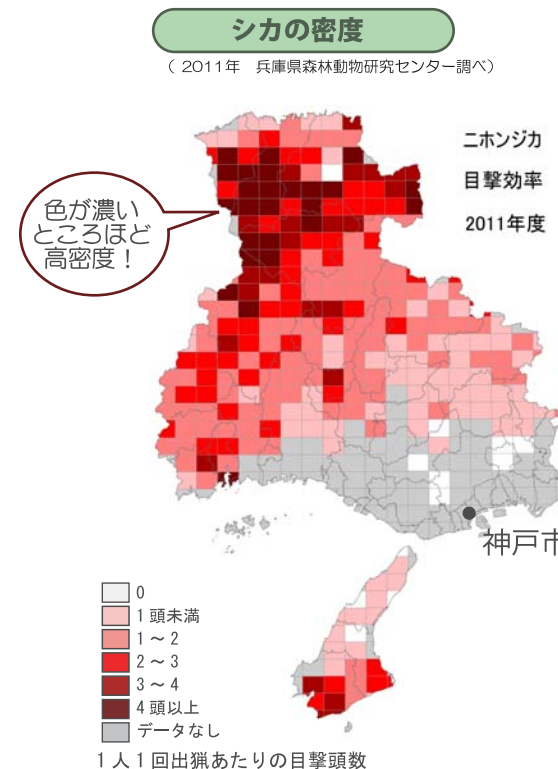


ニホンジカの特徴

オスは体が大きくて角がある



メス 体重: 30 ~ 60kg 体高: 60 ~ 80cm

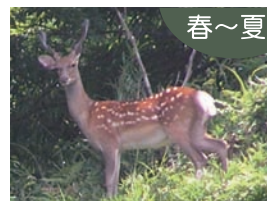


繁殖力が高い

- ・5 ~ 6月に1頭出産
- ・2歳以上の妊娠率は80 ~ 90%以上
- ・栄養状態が良ければ1歳でも妊娠



夏毛はかこの模様



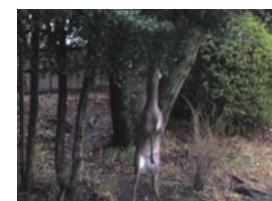
春~夏
夏毛は明るい茶色に白色のはんてん模様がでます。



秋~冬
冬毛はこげ茶色です。夏に比べて毛は長く密になります。

ほとんどの植物を食べることができる

さまざまな植物の葉や果実、樹皮まで食べることができます。



立ち上って木の葉を食べているシカ



生息密度が高いところでは、シカがとどく範囲には葉がありません。

シカがとどく高さ

ジャンプ力は約2m

高いジャンプ力を持っているので、田畑を守るための防護柵も高くする必要があります。

今起きている問題と対策

シカの個体数が増え続け、農業や林業の被害、自然植生への食害などが深刻化しています。問題解決に向け、兵庫県では防護柵の設置や捕獲を推進しています。また、捕獲されたシカを廃棄するのではなく、資源として有効に活用する取り組みが始まっています。

シカの増加



シカの仲間は、繁殖力が高く、天敵がいなければ、自然植生に深刻な影響が出るまで増えます。



シカが増えるおもな要因

高い繁殖力

成獣は栄養状態が良いと、毎年1頭の子供を産みます。

人が里山を利用しなくなった

里山の草木は、昔は人が薪炭や放牧などに盛んに利用していました。今は、人の利用が少なく、シカの食物になっています。

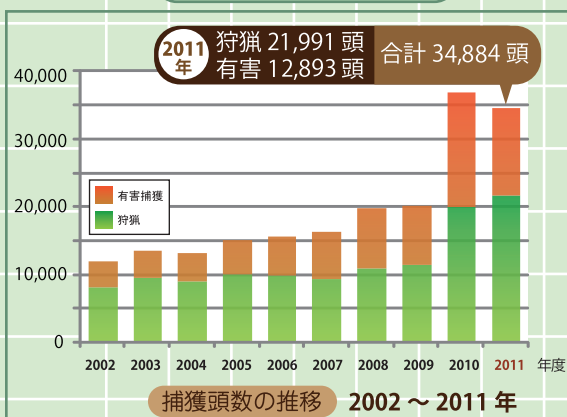
人がシカを捕獲しなくなった

肉や毛皮のためのシカの利用は減り、1990年頃までメスジカは保護の対象だったので、捕獲数は減っていました。

捕獲数の増加

近年では、メスジカの狩猟も解禁され、捕獲数は増加していますが、それでもシカは減少する傾向にありません。

シカの捕獲数（兵庫県）



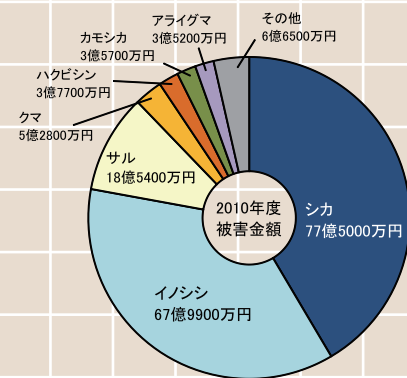
問題① シカによる農林業被害



全国における2010年度の農作物被害金額はシカが約77億5千万円と最も高くなっています。その額は前年に比べて増加しています。

野生動物による農作物被害金額（全国）

（農林水産省調べ）

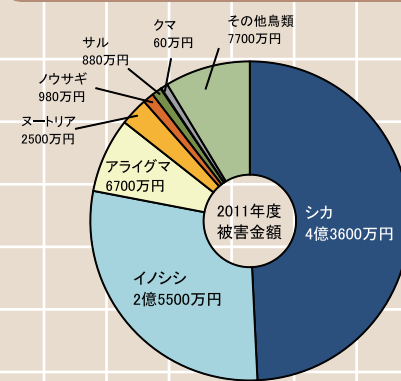


穂をかじられ、踏み倒された水稻



樹皮をはがされたスギ

野生動物による農林業被害金額（兵庫県）



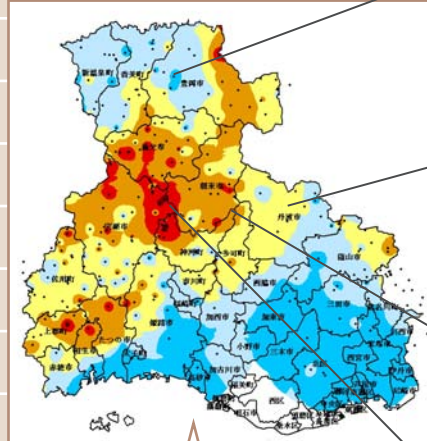
兵庫県における2011年度の農林業被害金額もシカが約4億4千万円と最も高くなっています。

問題② シカによる森林の衰退



自然植生被害の分布図

（2010年 兵庫県森林動物研究センター調べ）



無被害～衰退度0

衰退度1

衰退度2

衰退度3～4

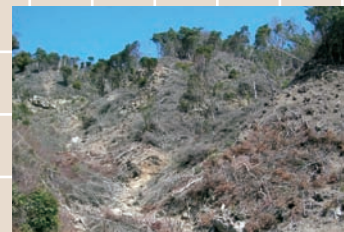
シカは多くの植物を食べるため、増えすぎると、自然植生が衰退していきます。

その結果、他の生物たちが生息できなくなったり、土壌の流出などが起こり、森林の機能が低下してしまいます。



表土が流出した林

急斜面では



土砂崩れをおこしている斜面

シカの密度の高いところで、過度の食害が発生しています。

解決にむけて① 防護柵で囲う

地域の取り組み

農家の皆さんは、シカの被害を防ぐために、大変な努力をしています。

シカの被害対策は、防護柵が重要な手段です。田畑や集落を2m程度の金網柵で囲うことで、被害を防ぐことができます。しかし、柵を破られないようにするには、点検や補修が必要です。



金網柵の設置



電気柵の点検

解決にむけて② 捕獲も重要な対策

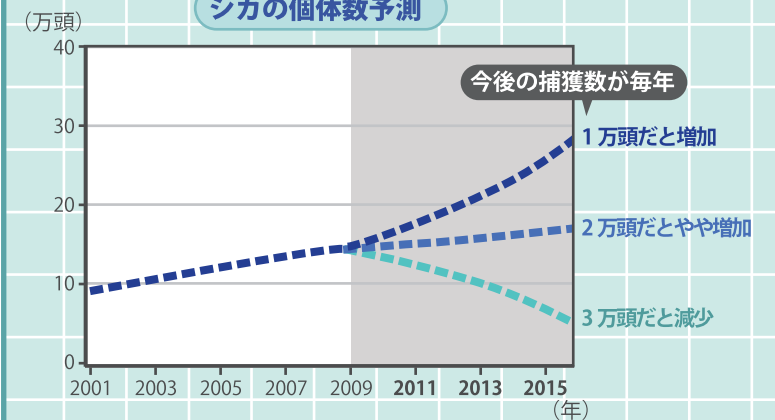
兵庫県の取り組み

問題を解決するには、捕獲も必要不可欠です。2010年からは3万5千頭を捕獲しています。

今後も数年間は3万頭以上の捕獲を続ける必要があると予測しています。

兵庫県では、生息状況を調査し、要因分析や将来予測をしながら、状況に応じた捕獲頭数の調整を行っています。

シカの個体数予測



（詳細については、森林動物研究センターのホームページより特定鳥獣保護管理計画 <http://www.wmi-hyogo.jp/plan.html> をご参照ください。）